



英語教育推進事業

平成28年度予算要求額
172,637千円

目的 児童生徒の外国語及び外国の人々や文化への興味・関心を育てるとともに、コミュニケーション能力を養う。



D 授業改善
～子どもが英語を活用する授業～

- ◇小学校へNS（ネイティブスピーカー）を配置
(小学校に年間14時間)
- ◇中学校にNSを2・3学期に配置
- ◇高等学校にALT（外国語指導助手）を通年配置
- ◇研究校における実践研究を推進、全市への発信
思いを書く、聞く、表現する活動の充実
(英語による言語活動、スピーチ、プレゼン等の充実)

C 評価・学習サイクルの確立
～より確実な検証改善～

- ◇英語能力判定テスト
(学びの診断の英語に替えて、中学校全学年で実施)
- ◇CAN-DOリストによる学習到達目標の設定
(明確な学習到達目標を示し、それに向かう授業を展開)

A アウトプットの場面の確保
～実際に英語を使う楽しさ～

- ◇NSとの日常的なコミュニケーション
- ◇授業の中でのリアル・コミュニケーション・シーンの創出
- ◇英語暗唱大会・弁論大会の開催

P 教員の意識改革・資質の向上
～学び続ける教員の育成～

- ◇教員の育成・指導力向上のための研修
文部科学省『外部専門機関と連携した英語指導力向上事業』

R 英語授業力向上研究指定校
～堺の英語教育の羅針盤～

- ◇研究校を小学校2校、中学校2校指定
- ◇小学校5・6年での教科化に向けた授業実践研究
- ◇説明中心の従来型一斉授業からの質的転換

〔堺市の現状〕

- 堺市「子どもがのびる」学びの診断等より、育成すべき態度や能力について、2極化傾向が見られる。
- 中学校卒業時に求められている英検3級程度の生徒の割合が全国平均より少ない。
- 生徒の意識調査から、英語の授業で学習した基本的な表現を会話等で実際に活用している生徒が少ない。
- 自分の思いや考えを書いたり話したりする場を設定し、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する必要がある。